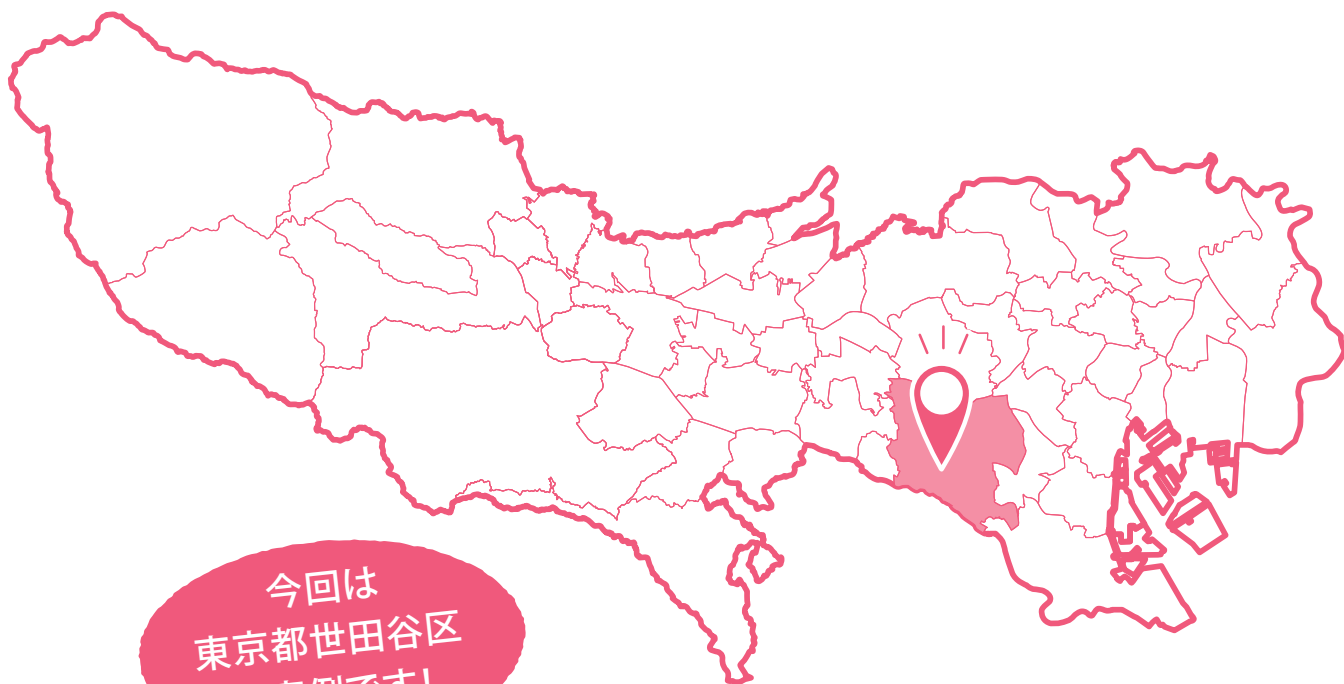


キャリア・パスポートを 「キャリア・カウンセリング」につなぐ

～世田谷区・世田谷区立富士中学校・三宿中学校より～



今回は
東京都世田谷区
の事例です!



世田谷区 既存の取組をひと工夫で “キャリア・未来デザイン教育”に

キャリア・未来デザイン教育は、子どもたちが未来に向けて自分のよさや可能性を信じ、自らの思い描く未来を実現するために世田谷区が大切にしている教育です。先生方の既存の枠を越えた創意工夫が実り、世田谷区のキャリア・未来デザイン教育がたくさん実現しています。キャリア・未来デザイン教育について紹介します。

世田谷区の

キャリア・未来デザイン教育

「キャリア・未来デザイン教育」とは、子どもたちが社会や環境の変化などにも対応する力や、自分の生き方をイメージし、なりたい自分に近づく力を身につけるための教育です。国語や算数、英語のような教科とともに、子どもたちの生活の中で培っていきます。

キャリア教育で目指す4つの能力

社会的・職業的自立に向け必要な能力・態度			
人間関係形成・ 社会形成能力 友達のよいところを見付ける力、お互いを大切に する力、コミュニケーション・スキル、チーム ワーク、リーダーシップ など	自己理解・ 自己管理能力 自分の役割の理解、自分の 良さに気付く力、自己 の動機付け、忍耐力、ス トレスマネジメント、す すんで学ぼうとする力 など	課題対応能力 情報の理解・選択・処 理、さまざまな課題を発 見したり、解決したりす るための力や態度 など	キャリアプランニング 能力 学ぶこと・働くことの意 義や役割の理解、多様性 の理解、将来について考 える力 など

子どもたちは次のような学びを行っています

<div style="border: 1px solid #00a0e3; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 例えば 教科の学習で 働く人から仕事についてやりが いや苦労について話を聞くこと で、学ぶことや働 くことの意義を理 解します。また、 自分の適性につ いて考えることで、 将来の自分の生き 方について考えを 深めます。 </div> 	<div style="border: 1px solid #00a0e3; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 例えば 特別活動で 子ども祭りに向けて、学級ごと に出店内容を考え、当日の役割分 担を決め、自分の役割を理解しま す。また、出店準備で起こるトラ ブルを解決して いくことで、さ まざまな課題を 解決するための 力や態度が育ち ます。 </div> 	<div style="border: 1px solid #00a0e3; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 例えば 学校外の活動で サッカーのクラブチームで、 チームメイトとサッカーの戦術に ついて話し合うことで、コミュニ ケーション・スキルを育みます。 また、チーム力を あげるために技術 を教え合う中で リーダーシップを 培うことにつな がります。 </div> 
---	--	--



キャリア・パスポートで

子ども一人ひとりが、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにすることが重要です。例えば、日々の学習や学校行事などの活動を記録し蓄積できるキャリア・パスポートを活用することで、学習や活動を振り返り、新たな学習や生活への意欲につながり、将来の生き方を考えることができます。



では、「キャリア・パスポート」の活用 × 「既存の取組をひと工夫」の実践を二校の中学校から紹介します。

富士中学校“つくる”を考える前に“つかう”を考えて

世田谷区立富士中学校では、「キャリア・パスポート」を三者面談で活用しています。これまでは教師が作成した資料を基に面談が進行されていましたが、それをやめて、生徒が記録・蓄積した「キャリア・パスポート」を活用して、キャリア・カウンセリング^{*}を行うこととしました。令和3年度の校長先生、担任の先生方の声を紹介します。



校長先生

「キャリア・パスポート」を作ることばかりに注目するとどうしても負担感が…。むしろ、「キャリア・パスポート」があったらどう使うかを先に考えようと思いました。

真っ先に思い付いたのは三者面談での活用です。担任は、本人の記録を基に生徒のよさや可能性を誉（認）めるのです。

生徒の意欲を喚起し、保護者との信頼関係を築く、最高のツールではないかと思います。

思ったよりも好評でした。生徒にとっては、自分の書いた「キャリア・パスポート」で面談が進められる安心感があったのでしょうか。保護者にとっては、生徒の文字や記述の内容から我が子の成長を実感したのだと思います。



担任の先生

保護者から「最近、家ではなかなか話してくれないので、学校で頑張っている姿を本人の記録から知ることができてうれしかった。」と感謝されました。

生徒からは「面談の後、親との会話が増えた。」との声もありました。これまでも同じような面談をしてきたつもりですが、（自分の）記録を基にした振り返りの大切さを改めて感じました。

三者面談を終えて、生徒のよさや可能性、やる気を引き出し、自己肯定感を高める評価とはこれ（キャリア・カウンセリング）なのではないかと思うようになりました。

そして、我が校では通知表の1・2学期の所見欄を廃止するきっかけになりました。



校長先生



^{*} 国立教育政策研究所「語る」「語らせる」「語り合わせる」で変える!

キャリア教育—個々のキャリア発達を踏まえた“教師”の働きかけ—についてはこちらの二次元コードから。

https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report_pamphlet3.htm

「キャリア・パスポート」を活用して、面談でこれまでの生活を振り返った生徒は、こんな感想を述べています。



生徒

記録って大事ですね。いつもなら忘れていたはずのことが…。行事や定期考査のたびにコツコツと記入したことで、今、その当時の思いを具体的に振り返ることができてびっくりしました。



生徒

自分で書いていますから、「自分の変化」を実感できました。親からも「あなたの本音や普段の姿が分かって、うれしかった。」と言われました。(*^▽^*)

中には、「キャリア・パスポート」を活用した面談をこれからの見通しにつないだ生徒もいました。



生徒

これ（「キャリア・パスポート」）を続けていくことで、3年、5年、10年前の自分と再び出会えることができるんですね。今から楽しみになってきました。(^ _ ^)v

三宿中学校 “納得感”と“必要感”を大事に

世田谷区立三宿中学校では、「キャリア・パスポート」の取組を“納得感”と“必要感”をキーワードに進めています。令和3年12月24日の終業式と学級活動の様子を紹介します。

2学期末の終業式で校長先生は、3年生がこれから臨む面接試験について触れました。『面接試験に向けて不安な気持ちをもっている生徒がいるかと思えます。大事なことは“納得感”です。質問の答えに“納得感”があれば、対話は流れるように進むはず。しかし、答えに無理や不自然なことがあれば流れは止まります。正解や模範解答はないのです。それぞれの経験や思いからどんな高校生活を送りたいのか、どんな社会人になりたいのか、あなたらしい“納得感”あるストーリーが紹介できればよいのです。そんな“納得感”を生み出す上で「キャリア・パスポート」は大きな味方になるかもしれませんね。』その後、生徒は学級活動に移ります。

学級活動では、これまで蓄積してきた「キャリア・パスポート」を返却しながら担任の先生が自己評価の“必要感”を次のように説きます。「5年後も必ず付き合っている人は誰ですか。」「そうです。必ずとなれば自分しかいないのです。」「是非、2学期の自分のがんばりを認めてあげましょう。」生徒は「キャリア・パスポート」に赤ペンで自分の成長を認めるコメントを書き込みます。

その後、担任の先生は「自己評価と他者からの評価のどちらが大事か。」と投げかけます。もちろん、生徒からは「一生、付き合っていくのは自分しかないから自己評価」「自分では認識できないことを指摘してくれるから他者からの評価」と双方の“必要感”が表明され、生徒は相互評価（キャリア・カウンセリング）の活動に移ります。

三宿中学校は、「キャリア・パスポート」の教師コメントを充実させ、通信票の所見欄を廃止しました。

自分は2学期に何ができるようになったか。
自分にポジティブメッセージを送ろう！
モチベーションを見つけて 勉強のペースが速くなったこと
で 受験を前向きに考えられるようになった <small>クラスのみんなにもポジティブなメッセージを送ってあげよう！！</small>
学級委員の仕事では、相棒に頼りたいこと
多分だが、自分にできることを懸命に考えてみて <small>勉強のペースが速くなった</small>
「クラスを明るくすること」と決め、それに合わせて

